

平成 20 年度

建設局予算要求方針

# - 目 次 -

1	平成 20 年度建設局予算要求総括表	1
	【一般会計】	
	【特別会計】	
2	20 年度予算要求にあたっての基本的考え方	2
3	予算要求の重点事項	2
	(1) 主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街	
	(2) 高齢者・障がい者へのぬくもりあふれる街	
	(3) 安全・安心で、人と環境にやさしい街	
	(4) 文化の薫る、都市の魅力が輝き、にぎわう街	
4	事務事業の総点検	7
	(1) 事務事業の見直し	
	(2) 受益者負担の適正化等	

# 1 平成 20 年度建設局予算要求総括表

## 【一般会計】

(単位：百万円)

区 分	平成 19 年度 予 算 額 A	平成 20 年度 要 求 額 B	増 減額 B - A	増 減率 ( B - A ) / A
管理部	24,615 (17,333)	23,697 (17,033)	918 (300)	3.7% (1.7%)
うち雪対策室	15,059 (13,493)	14,785 (13,226)	274 (267)	1.8% (2.0%)
土木部	30,014 (7,137)	29,280 (6,838)	734 (299)	2.4% (4.2%)
下水道河川部	3,178 (1,211)	2,989 (1,182)	189 (29)	5.9% (2.4%)
合 計	57,807 (25,682)	55,966 (25,052)	1,841 (630)	3.2% (2.5%)

( )内は一般財源額

この資料中の金額は、各計数の四捨五入で表示しています。したがって、内訳と累計値とは一致しない場合があります。

## 【特別会計】

(単位：百万円)

区 分	平成 19 年度 予 算 額 A	平成 20 年度 要 求 額 B	増 減額 B - A	増減率 ( B - A ) / A
駐車場会計 (札幌駅北口地下 駐車場)	227	233	6	2.6%

## 2 20年度予算要求にあたっての基本的考え方

札幌市の中期財政見通しにおいて、平成22年度末には306億円程度の財源不足となることが見込まれる厳しい環境の中、平成20年度の建設局予算要求枠についても大幅なカットが求められています。

一方で、建設局実施プランにおいて掲げている「道路・河川・下水道の整備、維持・管理等を通じて、市民の安心・安全で快適な生活を守ること」という使命を果たしていかなければなりません。

そこで、建設局としては、次の3点を重点事項と位置づけ、限られた財源の中での予算要求を行います。

バリアフリー化や地下歩行空間の整備等により、歩いて暮らせる快適で美しい街の創造を目指す。

安全・安心に暮らせる快適な街の実現のため、災害対策や水とみどりの保全等を講じる。

地域の実情に応じた除排雪を通じて、北国らしい豊かな暮らしの実現を推進する。

## 3 予算要求の重点事項

(1) 主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街

地域の主体的な街づくり活動を活発なものにするため、地域の自主的な判断で冬の暮らしを快適なものとするよう、地域住民、除雪事業者、行

政の三者による話し合いにより地域の実情に応じた除排雪やルール化などを実施し、市民自治の実践による地域づくりを目指します。

1 市民の主体的な地域づくりの支援

164百万円(128百万円)

注:( )内は19年度予算額

ア 地域と創る冬みち事業(管理部)

164百万円

地域住民、除雪事業者、行政の三者による話し合いにより、地域の実情に応じた除排雪を行い、市民の理解や満足度を高めます。

この事業の成果は、次期札幌市雪対策基本計画に反映させます。

【達成目標】事業参加の町内会数 H18:186 H22:560

【20年度効果】108(H19:292 H20:400)

(2) 高齢者・障がい者へのぬくもりあふれる街

歩道のバリアフリー化などの交通環境の整備を計画的に進め、障がいのある人をはじめ、誰もが安心して安全に活動できる、やさしい街づくりを進めます。

1 障がい者の自立支援の促進

1,094百万円(1,274百万円)

注:( )内は19年度予算額

ア 誰もが歩きやすい歩行空間ネットワーク創出事業(土木部)

1,094百万円

誰もが安心して歩けるよう、重点整備地区(都心・副都心・麻生地区)にお

ける歩道のバリアフリー化を推進するとともに、新たに3地区の地域主体の整備エリアを形成するなど、安全で歩きやすい歩行空間を創出します。

【達成目標】 重点整備地区バリアフリー化率 H18：71% H22：100%

あんしん歩行エリア等の形成数 H18：9箇所 H22：12箇所

【20年度効果】重点整備地区バリアフリー率6%（H19：81% H20：87%）

あんしん歩行エリア等の形成数0箇所（H19：9箇所 H20：9箇所）

### (3) 安全・安心で、人と環境にやさしい街

みどり豊かな美しい風格ある街並みの実現や清らかな水環境の維持・回復を図るため、市民や企業との協働により、みどりの保全と創出を進めるほか、人間活動による環境負荷の減少に努め、水辺の保全やせせらぎを回復する取り組みを推進します。

また、地震や水害などの災害から、市民生活の安全・安心を守るため、ライフラインの耐震補強などの災害対策を講じるなど防災力を高め、災害に強い都市づくりを推進します。

#### 1 水とみどりの保全・育成と創出

519百万円(164百万円)

注：( )内は19年度予算額

##### ア 創成川通親水緑地整備事業（土木部） 300百万円

創成川通アンダーパス連続化事業により創出される地上部分の緑地・河川空間において、創成川の歴史的価値を重んじつつ、水とみどりを活かした新たな空間を整備します。

【達成目標】都心部における水とみどりの空間（河川部分） H21年度完成予定

【20年度効果】H19：- H20：親水緑地空間のうち河川部分の整備に着手

##### イ 多自然川づくりの推進（下水道河川部） 219百万円

河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するため、多自然川づくり及び札幌市河川環境基本計画の策定を行います。

【達成目標】多自然川づくり整備延長 H18：4.7km H22：5.5km

【20年度効果】0.35km（H19：4.75km H20：5.1km）

## 2 災害に強い安全なまちの整備

933百万円(513百万円)

注：( )内は19年度予算額

### ア 災害に強い道づくり事業（土木部）

933百万円

大規模な災害時に救急・消火及び緊急物質の輸送などの重要な役割を担う緊急輸送路の機能を確保するため、橋りょうの耐震補強を行います。

【達成目標】耐震補強実施済橋りょう数（累計）

H18：26橋（34.7%） H22：45橋（60%）

第1次緊急輸送道路における耐震補強実施済橋りょう数（累計）

H18：11橋（68.8%） H22：16橋（100%）

【20年度効果】耐震補強実施済橋りょう数（累計）

5橋（6.7%）（H19：30橋（40.0%） H20：35橋（46.7%））

第1次緊急輸送道路における耐震補強実施済橋りょう数（累計）

1橋（6.3%）（H19：14橋（87.5%） H20：15橋（93.8%））

## (4) 文化の薫る、都市の魅力が輝き、にぎわう街

都市の持続的な発展を目指し、市民・企業・行政が一体となって、都心の魅力と活力を高めるために実効性のあるまちづくりを進めるとともに、市民の日常生活を支える拠点を再整備し、道都にふさわしい風格のある街並みとにぎわいを創出します。

## 1 将来を見据えた魅力ある都市の整備

8,360百万円(8,239百万円)

注：( )内は19年度予算額

### ア 札幌駅前通地下歩行空間整備事業（土木部）

2,734百万円

四季を通じて安全で快適な歩行空間を確保し、都心全体の魅力を向上させるため、地下鉄さっぽろ駅と大通駅の間を連絡する地下歩行空間の整備を引き続き実施します。

**【達成目標】**

地下歩行空間（地下歩道）の整備 H18：工事中 H22：供用開始

**イ 創成川通アンダーパス連続化事業（土木部） 4,744百万円**

都心南北交通の主軸道路である創成川通の北アンダーパス（北3条通～大通）と南アンダーパス（南2条線～南5条線）の連続化工事を引き続き実施します。

**【達成目標】アンダーパス連続化 H18：工事中 H20：供用開始**

創成川通地上道路部分整備 H18：工事中 H22：完成

**【20年度効果】H19：トンネル本体工事を実施 H20：引続きトンネル本体工事を実施し、アンダーパスの供用開始を予定**

**ウ 創成川通親水緑地整備事業（土木部） 再掲 300百万円**

創成川通アンダーパス連続化事業により創出される地上部分の緑地・河川空間において、創成川の歴史的価値を重んじつつ、水とみどりを活かした新たな空間を整備します。

**【達成目標】都心部における水とみどりの空間（河川部分） H21年度完成予定**

**【20年度効果】H19： - H20：親水緑地空間のうち河川部分の整備に着手**

**エ 交通結節点改善事業～JR白石駅周辺地区（土木部） 582百万円**

JR白石駅周辺において、鉄道により分断されている市街地の一体化や、交通結節点へのアクセスの向上、公共交通機関の乗り継ぎ利便性の向上を図るため、自由通路・駅前広場などの整備を引き続き実施します。

**【達成目標】JR白石駅自由通路 H18： - H22：供用開始**

**【20年度効果】H19：用地買収及びJR駅舎等の補償を実施 H20：白石駅北通（平成20年度供用開始予定）整備の他、引き続き用地買収及びJR駅舎等の補償を実施**

## 4 事務事業の見直し等

### (1) 事務事業の見直し

一般事務費の節約や、効率的な執務による時間外勤務手当等の抑制

<見直し額 56 百万円>

施設の保守レベルや、維持管理業務の契約方法の見直しによる経費節減

<見直し額 18 百万円>

サービス水準などを見直しによる経費節減（駐車場の廃止・駐車場案内システムの撤去）

<見直し額 13 百万円>

### (2) 受益者負担の適正化等

道路占用料（看板類 9,100 円(m<sup>2</sup>/年) 11,000 円(m<sup>2</sup>/年)など)

<見直し額 14 百万円>

堤防使用料（類似の土地価格×5.75/100 6.00/100 など）

<見直し額 1 百万円>

自転車等撤去収入（単価 1,000 円 2,000 円）

<見直し額 6 百万円>

なお、上記受益者負担のうち、自転車撤去収入は平成 20 年度からの改定で、他の 2 件は平成 17 年度からの段階的改定における平成 20 年度改定内容です。